



こしがや

1.1

平成3年
(1991年)

No. 865

1月1日、15日
合併号

越谷市民憲章

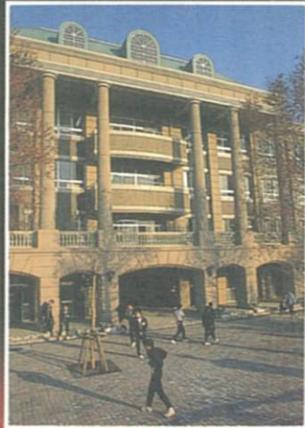
市の木：ケヤキ 市の花：キク 市の鳥：シラコバト

わたしたちは、越谷市民であることに誇りと責任を持ち、水と緑と太陽に恵まれた豊かなまちを築くため、限りない願いをこめて、ここに市民憲章を定めます。

1. 教養を豊かにし、人間性あふれる文化のまちをつくります。
1. きまりを守り、信じあい、心豊かな明るいまちをつくります。
1. 自然を愛し、お互いに助けあい、きれいなまちをつくります。
1. 健康で楽しく働き、明るいスポーツのまちをつくります。

発行／越谷市 ● 343 越谷市越ヶ谷4丁目2番1号 ☎0489(64)2111 編集／企画部広報広聴課

あなたと市政を結ぶかけ橋 KOHO KOSHIGAYA



個性豊かな校舎（北中）



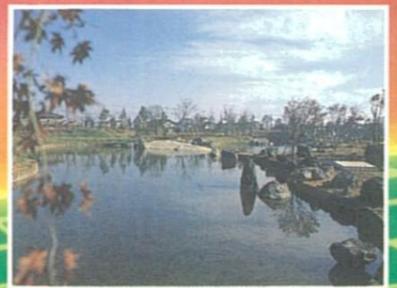
広がる国際交流の輪



進む鉄道高架。平成9年度完成目指す



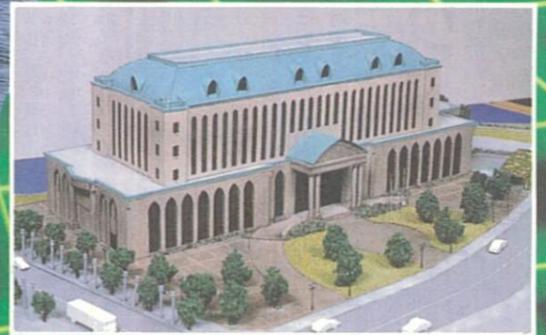
日本の伝統文化を守る（中央中和室）



本格的な日本庭園、花田第六公園



能楽によるまちづくり（こしがや薨能）



平成4年4月オープン（仮）越谷市総合市民会館

21世紀がまたひとつ身近に見えてきます

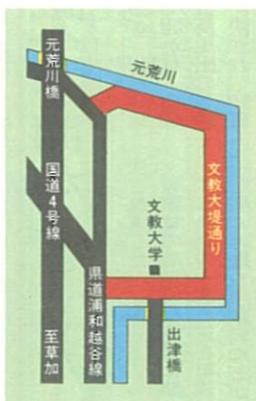
「30万都市」に一步一步近づくと越谷市。都市化で近年、大きく変ぼうしているとはいえ、豊かな自然と長い歴史にはぐくまれた私たちの生活や文化は、自信をもって子孫たちに伝えられます。

市民の平均年齢は34歳。人々の自信と活力は21世紀に向けたまちづくりに象徴されます。着々と進む東武伊勢崎線の連続立体交差事業や全国で初めてのレイクタウン整備事業、東埼玉道路などのビッグプロジェクトにその片りんを見せています。工事が進む花田第六公園や（仮称）越谷市総合市民会館の完成で、市民の憩いの場、文化活動の場がまたひとつ増えることとなります。

次代を担う子どもたちの学校も、「わが学舎（まなびや）」と誇れるような学校へと生まれ変わります。

越谷は今、青年期。成熟までの過渡期です。

文教大堤通り



「河川敷にはたくさん草花があつて、自然の図鑑のようです。通りは交通量も少なく、大学の先から元荒川橋の手前までは遊歩道となつてゐるので、絶好の散歩コースになつてゐます。自然に恵まれたこの通りが大好きです」

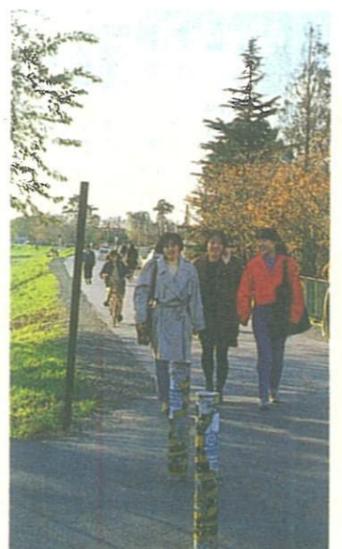
*次回は「富士見通り」を紹介し



自然が豊かな通りです
土田由美子さん（南荻島）

道

愛称がついた道30路線を皆さんに紹介していきます





真に魅力的な人にはドラマがある。そこには人知れぬ努力によって培われた芸術がある。
洗練された動きで見る者を魅了させる森田さん。研ぎ澄まされた音色を醸し出す
鏑木さん。響きわたる歌声で観客を感動させる北原さん。
21世紀のクリエイティブな皆さんを紹介します。



伝統の技術を大切にしていきたい

鏑木宏さん

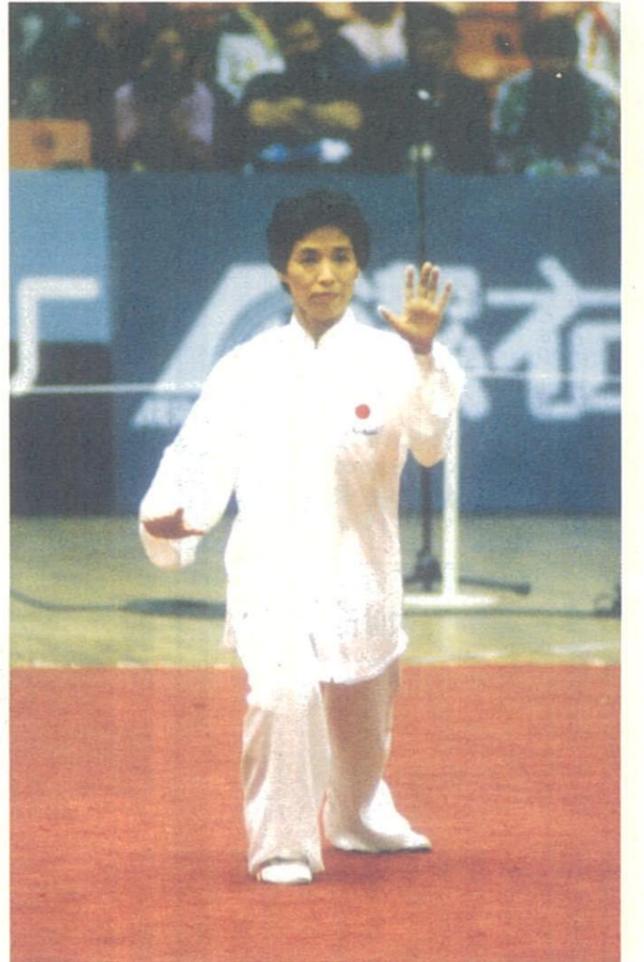
三味線

かぶらぎひろし
東町在住

サラリーマンから異色の転職。5年間で糸巻、裨、胴のあらゆる技術を習得。日本の伝統技術を継承する三味線職人。

昨年9月、北京で開かれたアジア大会の女子太極拳に日本のエースとして出場。
「大会はとても異様な雰囲気でした。過去の大会で何度も競った外国の選手は、笑顔が無く真剣。自分の国の名誉がかかっていたからでしょうか。私も少し緊張しました。でも、自分でそんな気持ちを抑えることができるようになっていたので心配しませんでした」
金メダル候補と期待されたが、地元中国の壁は厚く4位に。でも収穫は大きかった。
「有名な選手と競い合えてとても勉強になりました。そして、良い意味でも悪い意味でも自分がこれから歩むべき道がはっきりしました。太極拳は中国の武術という考えが強いんですね。私は太極拳を世界に広めたいと思っています」

これからの自分の立場を強く感じとったそのうだ。
この大会を最後に、現役選手としての活動に自らピリオドを打った。
「今は太極拳を普及するため全国各地を飛び回っていますが、何よりも健康のために楽しくできることに教えています。そして一方では、今後世界に通用する選手を育てたいと思っています」
大会後は、超過密スケジュール。自分自身の時間を取ることも難しくなりました。自分自身が、少しでも時間があると自分の練習も欠かさないと。
「今日の私があるのは、コーチの謝先生のおかげです。先生との出会いが、太極拳の見方を大きく変えてくれました。そしてもう一人、



太極拳を世界に通じるスポーツに

森田久子さん

太極拳

もりたひさこ
東越谷在住

全日本選手権で6連勝。アジア選手権でも2回連続チャンピオンに輝いている。現在、太極拳を普及するために各地で活躍中。



コーチの兄弟子、宋先生を知り、より太極拳の奥深さを教えられました。最も尊敬する師となりました」
今、二人の先生を目標に指導者となるために充電中だ。そして、今日まで協力してくれた夫と長男への感謝を忘れない。(す)



未(羊)のはなし

平成3年(1991)は、暦のうえでは12年に一度回ってくる十支のうち、8番目にあたる未の年にあたります。もとより羊は牛科に属した温帯で従順な草食動物で、家畜として人に飼育されるようになったのは、今から7000年くらい前からだといわれます。その毛や毛皮は衣服や敷物となり、肉(マトン)は食料となり、内臓の腸はソーセージに用いられるなど、人間にとってはかけがえない財産として、中央アジアをはじめ、ヨーロッパや中国などで盛んに飼育されてきました。でも日本では羊を飼育するようになったのは、明治に入ってからだといわれますが、羊毛・羊肉・チーズなどは外国から大量に輸入されていますので、その

飼育はあまり盛んではないようです。一般的に羊はやさしく善良な動物とみられ、羊を用いた漢字には、優美の美、善成の養、祥鳳の祥、新鮮の鮮、羨望の羨、善行の善など数多くみられます。また羊の肉たといつて実はイヌの肉を売るといって「羊頭狗肉」ということわざにも使われていますが、これは見せかけは立派だが、中味は劣っているというたとえです。

ところで未年生まれの人、羊のようになしく、引っ込み思案といわれますが、礼儀を重んじ、深い思考力をそなえ、芸術にもすぐれています。未年生まれの人には、政治家では三木武夫、小説家では水上勉、俳優では山本富士子などがいます。高倉健、元ボクシングチャンピオン奥田義彦、高木など、たいそう勇ましい人も少なくありません。十二支の生れについて、強いか弱いか、いろいろ言われていますが、私たちは未年に限らず、それぞれの良い所をとって今年もがんばっていききたいと思えます。

張り子の未
張り子とは木型に厚手の和紙を張り、かわいた後、中の型を取り除いて作る一種の郷土がん具で、市内では江戸時代から農家の冬場の作業として受け継がれてきたものです

MITSUHITO



美

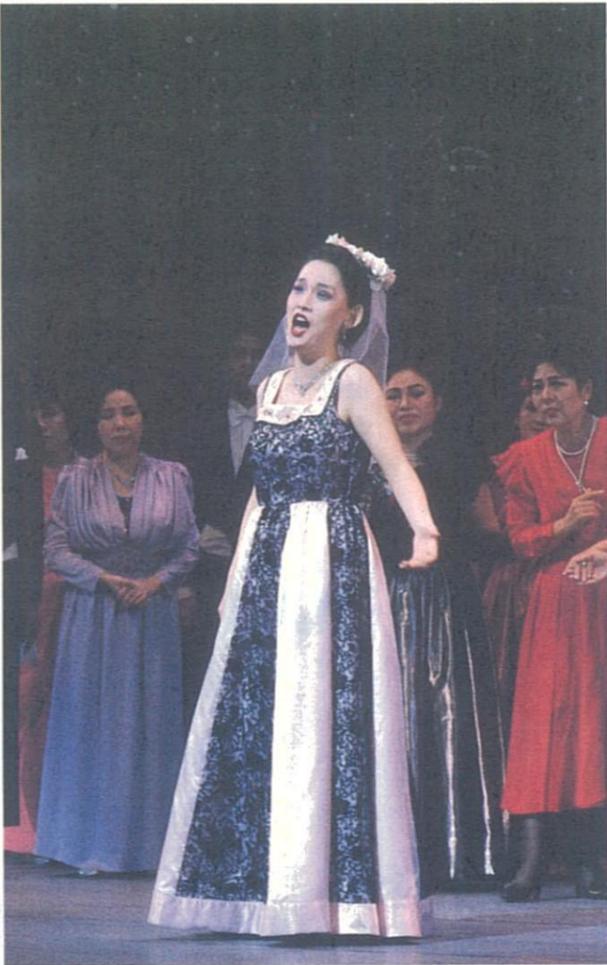
瞬間にかけ、感動を与える 越谷を彩るスペシャリストたち

ここはブダベスタのキャバレー「オルフェウム」の劇場。人気の高い踊り子シルヴァ・ヴァレスクが、客の大歓声を迎えられて登場し、情熱的に歌い、踊る。

オペレッタ「チャルダッシュの女王」でのひと幕。11月23日浦和市文化センターで開かれた第1回さいたま芸術文化祭「オペラ祭」の主役を演じたのが、北原さん。オーディションで29人の中からシルヴァ役を射止めた。

「ソリスト(独唱者)として舞台経験があったので、さほどプレッシャーを感じなかったですね。幕が開く前は自分の中でシルヴァを描き、役になりきることを考えました」

幼いころから歌うことが大好きだった。「小学校では合唱部に入って、6年生のときに、音楽の先生につき基礎から勉強しました。



日本伝統音楽の撥弦(はつげん)楽器である三味線。人形浄瑠璃や長唄、小唄などに用いられる。3本の弦からは太い調べから細い調べまで、幅広い音色が醸し出される。

「上役がない、青天井はいいですからね」

29歳のとき、サラリーマンから転職。三味線作りを始めた。

「以前から三味線には興味がありました。15年前、友人に紹介されたのがきっかけでした。転職の苦勞? 仕事は何をしても同じです。自分自身の仕事をしたかったんです」

三味線作りは、糸巻、棹(さお)、胴の3つの分業である。楠木さん自身、このすべての作業技術を習得している。

「とにかく一流と言われている職人のところへ何度も足を運びましたよ。ほとんど家に

いませんでしたね」

師匠はたくさんいる。北海道、北陸、四国など全国をまたにかけ、技術を盗んだ。

「三味線作りで大切なのは、胴の皮張りです。何度も失敗しましたよ。皮には厚い所と薄い所があって、その力加減が難しいんです。平らに見える棹は、少し波うつようになっているんです。コンマ数ミリ違つと、まったく別ものになってしまふんです」

胴に張る皮は8割が犬。棹には、日本にはない紅木(べにのき)を使用。インドから輸入している。

「会心の作は年に1、2本。出来のいいものは少しの物音でも鳴り響くんです。余韻があるんです。そんな三味線を、求め続けていきたいですね。頂点の人の作品から見ればまだ

その後、先生の勧めもあつて音楽の道へと進みました」

現在、ソリストとして都内を中心に月2回の公演をしている。そのために毎日夜遅くまで練習する。美しいソプラノの歌声を保つため自己管理に気を遣う。

「私自身が楽器です。きれいな声を出すためには練習は欠かせません。歌は素質だけでなく努力が大きなウエイトを占めています。発声練習は毎日、そのほか腹筋運動や鉄アレイで体を鍛えています。体力がなければ歌えません。私にとってのどは失いたくない大切な宝物です。異常がなくても週に1回咽喉科に通院し、のどの状態をチェックしています」

オペラは1600年ごろイタリアで始まった。日本人の手によって初めて上演されたの

オペラを広めるため 歌い続けます 北原靖代さん

オペラ

きたはらやすよ
宮本町在住

東京芸術大学大学院オペラ科研究生、二期会研究生。高校から音楽の道を進む。オペラのほかにソリスト(ソプラノ)としても活躍中。



は今世紀初頭、1903年だ。日本のオペラの歴史は浅い。

「オペラ普及のために多くの人にオペラを見て欲しいですね。いい歌を歌い続けます」

越谷でのオペラ公演を夢見て、厳しい練習が続く。



まだ。50点ぐらいの出来」と自己採点は辛い。

「伝統的なものだけに若い人を育て、音の幅、張り、重みのあるものを作りたい」

4人の弟子に技術を伝授する42歳の親方。餅のりを塗った胴に皮の張り具合を確かめる姿に、伝統技術の重みを感じた。

①	②	③	④	⑤
			F	
	⑥		⑦	C
D				
⑧	⑨		⑩	
⑪			⑫	E
⑬		⑮		
⑭				
	⑯	⑰		⑱
⑲	⑳			B
		A		
㉒				

- ### タテのヒント
- ①パリーグの新人王
 - ②シッポまであながいばい
 - ③お人形が入ったガラスの○○○
 - ④和服をきて、ツメをつけてひく楽器
 - ⑤ボールを7こさがすマンガ(カメハメー)
 - ⑦東京の○○でうちあげる花火は最高
 - ⑧豚肉にころもをつけたあげもの
 - ⑩○○がねまをしょって来る
 - ⑮国語辞典は言葉の○○がのこっています
 - ⑯うき道(うき道)「うき道」の一節です
 - ⑰駅前の○○○店で友だちとコピーとケーキでおしゃべり
 - ⑱後藤久美子の愛称(あいしゅう)
 - ⑲はずかしくて「○○から火が出る」といいます
 - ㉒トルストイの「○○と罰」は「○○」
- ### 応募のしかた
- はがきに答えと住所、氏名、学校名、学年、組、広報を読んだ感想などを書いてください
 - しめきりは1月15日消印のものまでです
 - あて先は〒343越谷市越ヶ谷4-2-1越谷市役所「広報こしがや」こともクイズ係まで
 - 正解者20名のおともたちに記念品をおくりします。正解者多数の場合は抽選です
 - 応募できる人は市内に住む小・中学生です
 - 当選者は2月15日号の広報こしがやで発表します

- あいているところに文字を入れてごときにしてください。
- 6つの二重ワクの文字をA B C D E Fの順にならべると、どんなことばになるのでしょうか。人気マンガの主人公の名前です。がんばって!
- ①仮面(かめん)ノリダーの正体は?
 - ④今流行の○○○レステレホン
 - ⑥パンの発酵(はっこう)には○○○
 - ⑧園をつかいます
 - ⑧うき道(うき道)うき道は途中で?
 - ⑩おさるの○○やだホイ、サッサ
 - ⑪夜になると、○○の家でもつけます
 - ⑫奈良県にある東大寺の南(なん)○○○○の仁王様が有名です
 - ⑭○○を越え行こうよ口笛ふきつ...
 - ⑮○○○○ひらきのおしるこはおいしい
 - ⑯のどに三日月形の白毛が持ちよう、○○○○です
 - ⑰みんなで出かけようレッツ○○○
 - ⑲車にワックスかけて○○をたす
 - ㉒工作でものを○○○○が大好き
 - ㉒電話で○○○○○○○○はロボのミミ



ハトポッポは若者のページです。読んだ感想、テーマとして取り上げてほしいことなど、おたよりをお待ちしています。



さあ、出かけよう 僕らは野鳥探偵団



ユリカモメ 百合鷗

体は真っ白、くちばしと足は朱。みこをイメージする。伊勢物語の都鳥は、この鳥といわれている。毎朝、東京湾から各河川沿いにさかのぼってきては夕方に帰って行く近距離通勤者だ。堂面橋下流などによく集まっている。



シメ 鶇

頭でっかちのズングリムックリ。薄いぶどう色の、目のくま取りと太いくちばしがすこ味を増す。スズメより大きい。アリタキアーボレータム入口付近でよく見かけた。越ヶ谷三丁目の中国料理店のえさ台にもよく現れる。



ジョウビタキ 耐鷲

スズメ大で翼に大きな白斑があり、紋付き鳥とも呼ばれている。とまり木では、ペコペコおじぎをし、尾をふるしくさを示す。人間の世界をかいま見る思いがして、嫌う人もいる。市街地の庭にも来る。



マガモ 真鴨

『鴨とりゴンベエ』のカモがこれ。雄はピロードのような緑の頭に黄色いくちばし、白い首輪でおしゃれしている。アオクビと呼ぶ人もいる。

堂面橋付近に群れているカモの中に、毎年2〜3羽の姿を見る。



ヒドリガモ 緋鳥鴨

雄は赤茶の顔にクリーム色の顔。ピューー、ピューーとよく鳴く。

学名 *Anas penelope* のペーネロ一は、ギリシャ神話のオデッセウスの妻の名前に由来し、貞淑な妻の代表とされている。

堂面橋下流に多い。



「僕は、この冬越ヶ谷に越してきたばかり。仲間に『いい所だからいっしょに行こうよ』と誘われ、付いてきてしまった。でも、住んでみると本当にいい所だね。今度来るときは、仲間を誘って来よう」と、鳥が話していたとか……。越ヶ谷市には今、シベリアから渡ってきた冬鳥たちが羽を休めています。そこで、今回は冬によく見られる鳥の一部をご紹介します。



タシギ 田鴨

ズングリした体に、長くまっすぐなくちばし。水田や湿地などにいるが、保護色なので見つけづらい。急に足元から「ジェット」と濁った声を出して飛び立ち、観察者を驚かしたりする。



ツグミ 鶇

冬も深まると地上に下り、1〜2メートル小走りし、胸を反らせて急停止する動作を繰り返す。茶色っぽく見え、はとより小さい。土が露出したところ、畑や冬の田でよく見かける。庭にも来る。かすみ網による密猟の最大の被害者。



カワウ 河鴨

越ヶ谷の上空を200〜300羽の群れで飛んでいる。どうやら、朝は渡良瀬遊水池に向かい、夕方は上野不忍の池に帰るようだ。途中下車するものもいて、古利根川や元荒川で首だけ出して泳いでいる2〜3羽を見る。



モズ 百舌

集落や農耕地の周辺で、鋭く「キーキーキー」と高鳴きをする。ほかの鳥の鳴き声をよくまねし、百舌と書く。

昆虫やカエルを捕らえ、鉄条網や小枝に刺す。「モズのはやにえ」と言う。スズメより大きい。



オナガガモ 尾長鴨

雄は、英名 Pintail のイメージそのままに、尾がピンととがる。白い胸も遠くからよく目立つ。

堂面橋から寿橋の間に多い。比較的、人に慣れやすく、上野不忍の池では、人の足元まで寄ってきてえさをねだる。



ムクドリ 椋鳥

冬の夕方、大きな群れをつかって飛んでいる。埼玉鴨場に大きなねぐらがあり、午後4時半ごろ、万を越すムクドリが集まる。ちょっとしたヒッチコックの『鳥』の世界である。名はムクノキの実を食べることに由来する。



メジロ 目白

スズメより小さい。黄緑色の体と目の周りが白いことで間違えることはない。

越ヶ谷三丁目の中国料理店のえさ台によく現れる。春には久伊豆神社の池のほとりの桜でみつを吸う姿を見かける。



野鳥の写真と文提供：県自然保護課・並木宏光さん・青沼俊雄さん・越ヶ谷小学校教諭 山部直喜さん

▼今日は家族でドライブ。高速道路は正月のためガラガラだ。BGMをかけて走るBGMだ。車エーストワゴンに絶対好調。アレ、突然騒がしいBGMだ。今年も現実は厳しいナ。丸10年を迎える愛車、今年も……(す)
▼広報2年目。最近、めっきり遠くの文字が読めなくなりました。視力は1から0.5へと急降下。「目つき悪いぞ」と言われることもしばしば。やっぱり眼鏡が必要かな。今年も、ピントも仕事もドンピシャリ。(や)
▼休みを利用して、料理のレパートリーを広げようと思いましたが、もちろん今の料理がまずいと言われたわけではないです(が)。(早速料理の本とカード、エプロンを用意できました。さあ、あとは実行あるのみ。(ゆ)
▼4月から息子が幼稚園に通うことになりました。親に似ず、わがままだからうまくやっついていけるか心配です。本人は行きたくないと言っていますが……。今年もヒツジ年。メイメイが健康であらばいいか。(も)
▼年末のボーナスで、8月に購入したカメラの支払いを終え、やっと自分のものになりました。今年もカメラの機能を最大限に活用し、よい写真を撮りたいものです。その前に文章の腕をあげよう。(も)。(は)
▼年に6、7本回ってくる企画もの。大筋は編集会議で決めますが、構成、取材、現像、原稿、レイアウトは担当者が平均4、5日の早業(？)です。みけんのシフはウチに帰っても消えませんが、今年も「まっホッ。(き)
▼年一回、スキー場で子どもを後ろにそりすを演じます。気持ちよさそうに滑る若い人を見ても目に見てそりや苦痛。14日、同僚のき君から次男誕生の電話、みんなでおめでとう。みけんのシフはとれたかな。(あ)